

ひらつかん

HIRATSUKA CITY MUSEUM '88 6月号

*** 6月の行事 ***

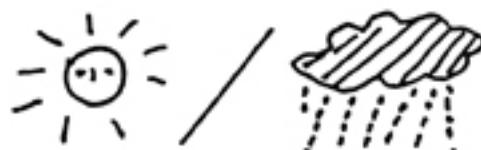
6月

- 1~9 館内くん蒸のため休館
- 11 土 石仏を調べる会
- 8 土 古文書講読会／土曜観察会
"自然の新聞作り"
- 19 日 自然観察会 "箱根樹木園"
- 25 土 石仏を調べる会
- 26 日 相模川を歩く会
- ・寄贈品コーナー：渡辺コレクション "絵葉書"
(11~7/30まで)
- ・プラネタリウム：土星の環
(11~6/10まで)

7月

- 2 土 古文書講読会／土曜観察会
- 9 土 石仏を調べる会
- 16 土 古文書講読会／土曜観察会
- 23 土 石仏を調べる会
- 24 日 相模川を歩く会(まとめ)
- 26 火 星を見る会 "月と土星を見よう"
"自由研究相談会"
- 27 水 入門講座 "セミのぬけがら調べ"
- ・特別展：相模川流域の弥生時代
(20~8/30まで)
- ・寄贈品コーナー：渡辺コレクション "絵葉書"
(30まで)
- ・プラネタリウム：土星の環 (10まで)
真説・火星物語 (16~8/30まで)

● サマーセミナー参加者募集



夏休みに2泊3日で、平塚市土屋地域の自然と人々の生活の様子について、いろいろなテーマで学習する。

日程： 8月9日(火)~11日(木)

会場： 七国荘(平塚市土屋)

募集人員： 小学校5年生～中学校3年生までの男女計30名(申し込み多数の時は抽選)

申し込み： 案内書を送付するので、60円切手を同封の上、封書で7月10日までに博物館へ。

● 寄贈品コーナー

渡辺コレクション「絵葉書」

大正末年から昭和初年にかけて集められた「絵葉書」各種を展示します。

臨時休館のお知らせ

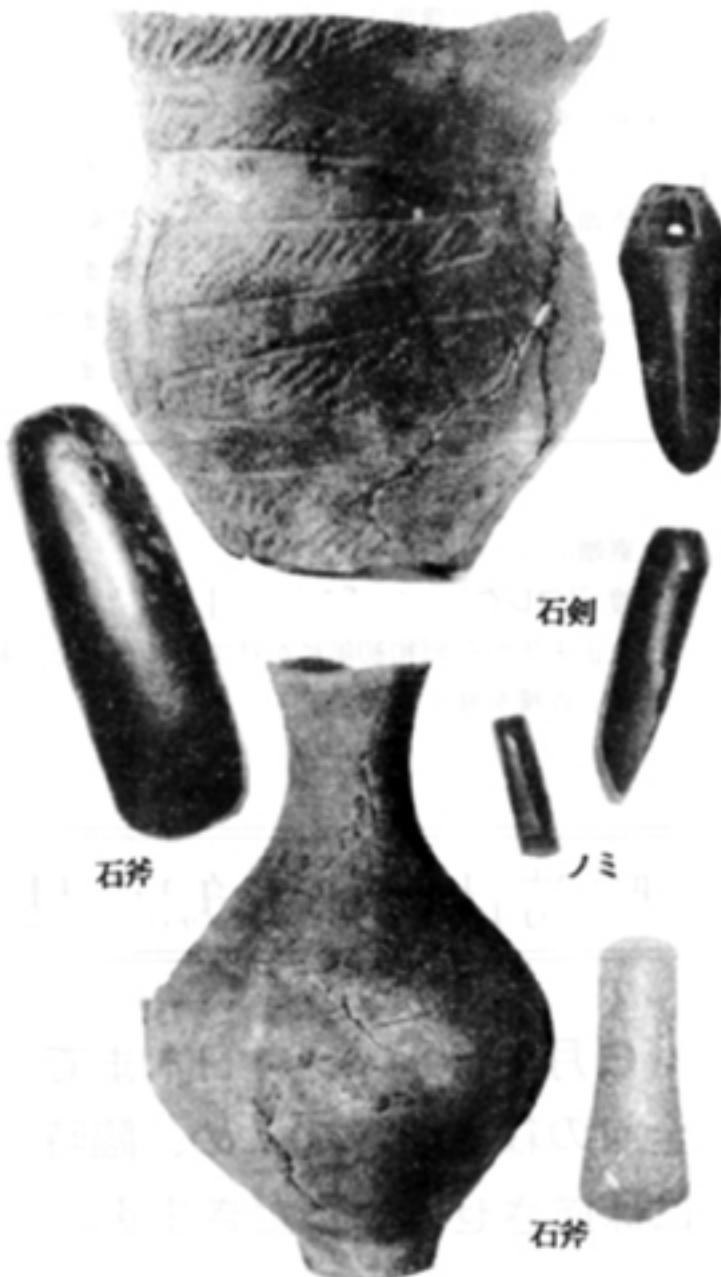
6月1日(水)~9日(木)まで
全館の殺虫消毒のため、臨時に
休館させていただきます。

夏期特別展

相模川流域の弥生時代

期間 昭和63年7月20日～8月30日

会場 平塚市博物館 特別展示室



○夏期特別展「相模川流域の弥生時代」

期間 昭和63年7月20日～8月30日

会場 平塚市博物館 特別展示室

内容 私達の生活基盤となつた弥生時代に
視点を置き、相模川流域で展開され
た弥生時代の様相について紹介しま
す。

祭器？

○特別展示講演会「相模川流域の弥生時代」

日時 8月7日(日)午後2時から

会場 博物館講堂

講師 岡本孝之氏

(慶應義塾藤沢校地埋蔵文化財調査室長)

○史跡見学会

日時 8月5日(金)午後2時から

場所 三殿台考古館

講師 今井康博氏(三殿台考古館学芸員)

定員 30名

申し込み 7月20日までに、氏名・住所・年齢・
電話番号明記の上往復葉書で。(明石)

海と川

2階展示コーナー

●打ち上げを探す（漂着物のいろいろ）

海岸を歩いていると、実にいろいろなものが砂浜に打ち上げられているのが目につきます。

このコーナーでは、平塚海岸で発見された打ち上げ（漂着物）をいくつか展示しました。

・ハシボソミズナギドリ

5月から6月にかけて、海岸で水鳥の死体が多く見されたというニュースが報道されることがあります。それは、多くの場合ハシボソミズナギドリです。この鳥はオーストラリア南東のタスマニア周辺の島で集団で繁殖し、その総数は約2千万羽と言われています。南半球の春から夏に、繁殖した彼らは、北へ向かって旅立ち、太平洋を北上して、ベーリング海などで北半球の夏を過ごします。秋には再び南下して、生まれ故郷のタスマニアに向かう長い渡りの旅を毎年繰り返しているのです。

北上する春の渡りには、その年に生まれた若鳥が多数含まれています。経験の浅い彼らの中には

十分餌が取れずに弱ってしまうものがあり、そうした鳥は岸近くに吹き寄せられ、最悪の場合、波にもまれて岸に打ち上げられてしまうのです。

湘南海岸でも、年によつては海岸線に点々と死体が見られることがあります。多数の鳥が死ぬのは約10年周期といわれ、この次は1993年頃がそのピークにあたります。

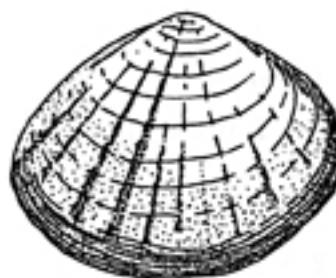
・アカウミガメ

日本近海に生息するウミガメとしてはアオウミガメ、タイマイなどがありますが、相模湾でしばしば記録されるのはアカウミガメです。

アカウミガメは徳島県等で毎年産卵に訪れる海岸が知られていますが、神奈川県では三浦市で稀に産卵例が記録されているだけです。

ここに展示した標本は1985年7月に平塚海岸で死体が発見されたものです。腐敗が進んでいて、剥製にすることができなかつたので、骨格だけを保存することにしました。

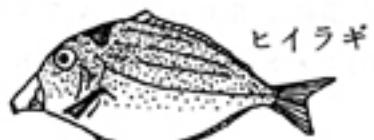
打ち上げの中に見つかる動物



パカガイ



ムラサキイガイ



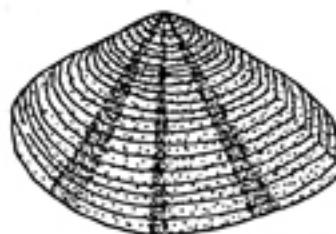
ヒイラギ



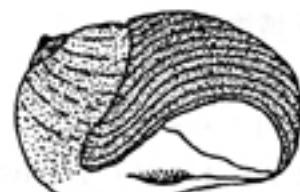
ダンペイキサゴ



キンセンガニ



コタマガイ



ツメタガイ



エボシガイ

ツメタガイの卵
(砂茶碗)

シマメノウフネガイ

・セグロウミヘビ

ウミヘビには爬虫類のウミヘビと、それに外見がよく似た魚類のウミヘビがあります。爬虫類のウミヘビは多くの種類が猛毒を持つことで知られていますが、性質はおとなしく、かまれる事故はありません。

分布は南方系で、日本では沖縄近海に生息していますが、稀に黒潮に流されて、相模湾まで北上して来ることがあります。特にセグロウミヘビは遊泳力が強く、ウミヘビの中でもっとも北まで出現する種類です。ここに展示した標本は二宮沖の定置網にかかった個体です。

なお、本館には同じ二宮の定置網にかかったマダラウミヘビの標本も保存されていますが、これは相模湾で唯一の記録です。

・打ち上げに注目しよう

今まで紹介してきたような大きな動物でなくとも、打ち上げの中にはいろいろな興味深いものが含まれています。

バカガイ・ツメタガイ・ダンベイキサゴなどの貝、キンセンガニ・マメコブシガニなどのカニ類、ハコフグ・ヒイラギなどの魚類、川から流されてきたオニグルミの実など、散歩がてら探してみたらどうでしょうか。

ただし、注意して頂きたいのは、最近、毒のあるカツオノエボシ（電気クラゲ）がしばしば、大量に打ち上がっていることです。長さ5、6センチの青い透明な袋状のもので、これはさわらない方が無難です。長い触手に猛毒があり、特に汗で濡れた際の水中でひらひらしているのは危険です。

（浜口）

博物館刊行物一覧

(S 63・4・1現在)

・博物館ガイド相模川流域自然と文化(800円)

・ガイド

4地層と化石(400円)・5高麗山、湘南平(450円)・6平塚の遺跡(500円)・7平塚四季の自然(500円)・8平塚・石仏めぐり(550円)

・図録

相模湾の魚と魚撈(500円)・街の生きものたち(500円)・飛驒の民具(300円)・神奈川の化石(800円)・相模川流域の横穴墓(800円)・林の生きものたち(600円)
・大山の信仰と歴史(800円)

・博物館年報

3、4、5、6号(各400円)・7号(500円)・8号(550円)・9号(600円)・10、11号(750円)

・自然と文化

2号(600円)・3、4号(各700円)
5号(550円)・6号(600円)・7、8号(各650円)・9号(700円)・10号(650円)・11号(700円)

・所蔵資料目録

II(350円)・III(500円)・IV(400円)・V(550円)

・平塚の石仏6(400円)

・シダ植物標本目録(500円)
・展示は語る(500円)

・湘南植物誌1・2・3(各800円)

・大磯丘陵の地質2・3(各900円)

・平塚鳥類誌(600円)・須賀の民俗(1500円)・王子台遺跡(500円)